

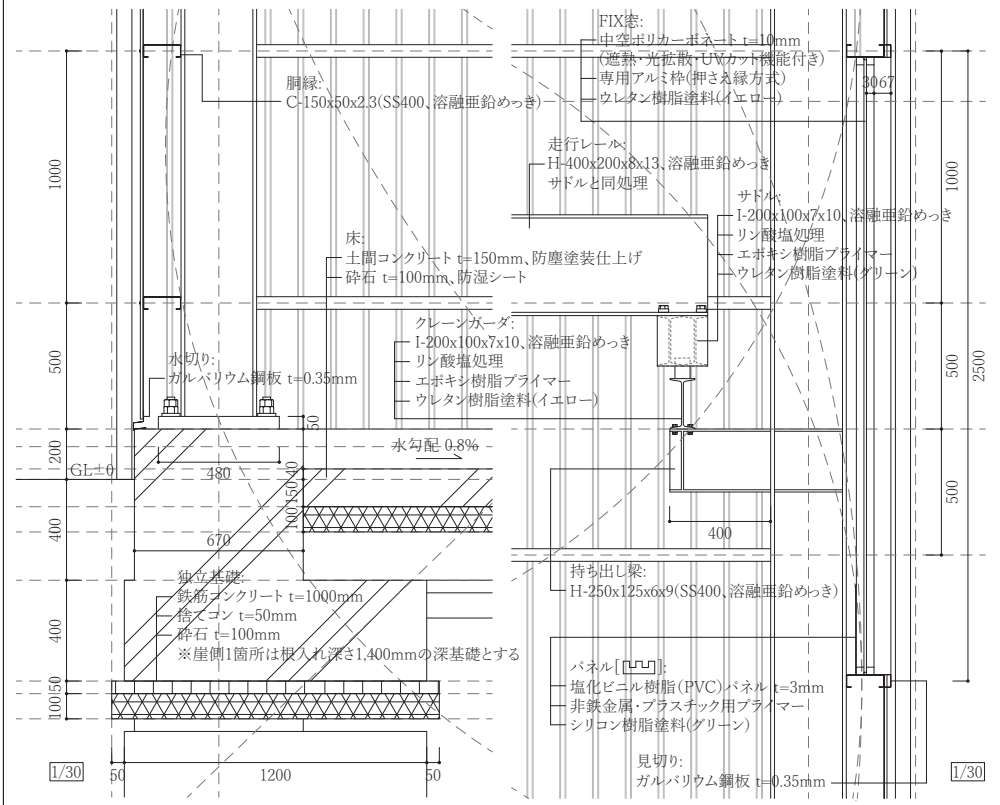
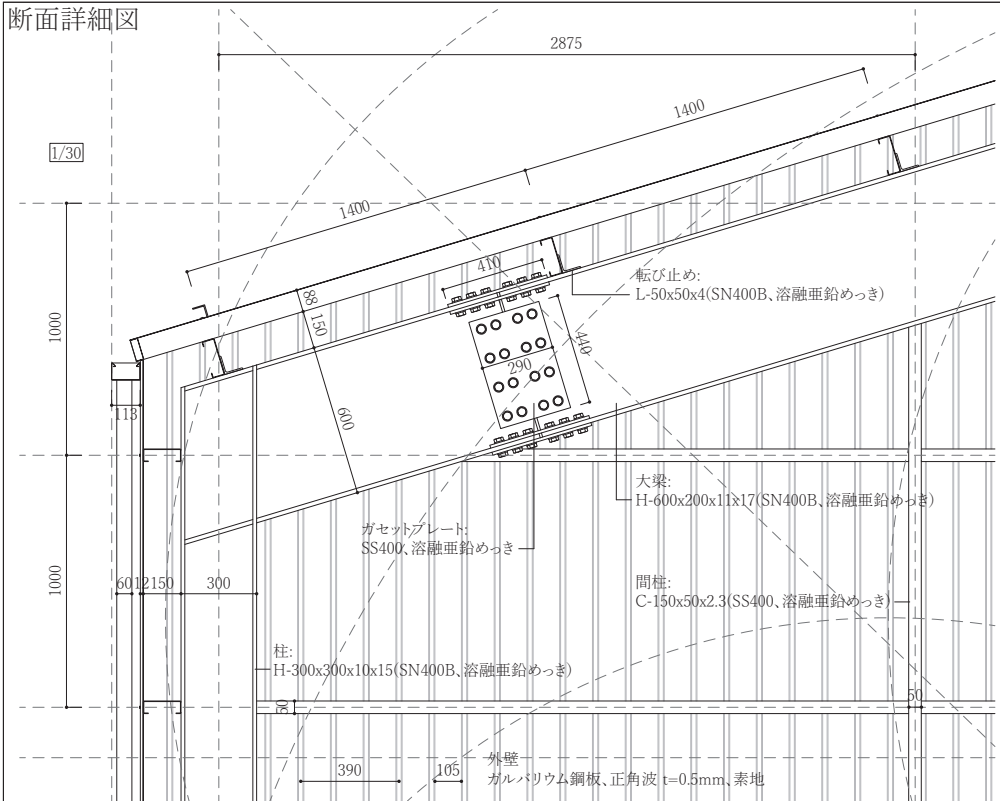
バイオレーションズ ―マルチ・エイリアスの所在、一身ニテ所存在―

パラレル・ドライブ

此処には異なる秩序が幾つも潜んでいる。柱、窓、胴縁、パネル、扉、屋根、壁、それらを規定する**隙**序はそれぞれ独立し**存在**している。建築によって叶えない**復讐の事象にパラレルに向き合う**、そうすることによって生まれた秩序は設計が進むごとに、重なったり、相反したりする。建築設計におけるあらゆる**矛盾を意味の重なりを受容し**、建築が本来の意味を感えて**多解的**になるようにする。例えば、柱はその合理性から、全体を**3等分**するように配置されるが、窓はそれとは独立して1000mm角を基準に壁面を**5等分**する。そして天井クレーンは**隅隅**により定められる。それぞれが独立して立ち上がると、**窓から柱が見切れる**、**クレーンが窓を横切ったりする**、これらの矛盾はさらなる解釈を生み、**建築がそれ以上の価値を持ち始める**。一方で、等間隔に配置された胴縁は窓のフレームの間隔と丁度重なり、**合理性を強めている**。如何にせよ、**パラレルな秩序を衝突**させることは、新たな意味を生み出した、その意味を強めたりする。**1+1は3または強力な1**となる。

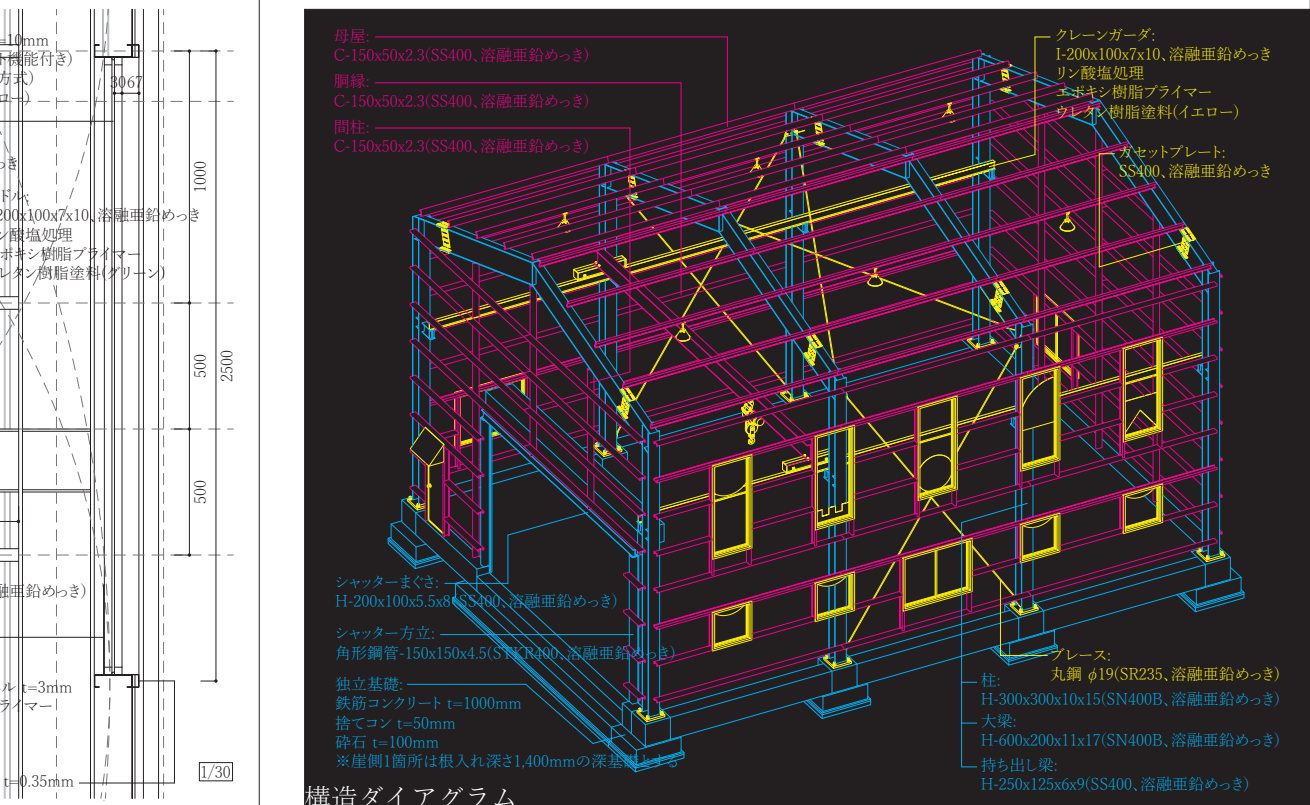
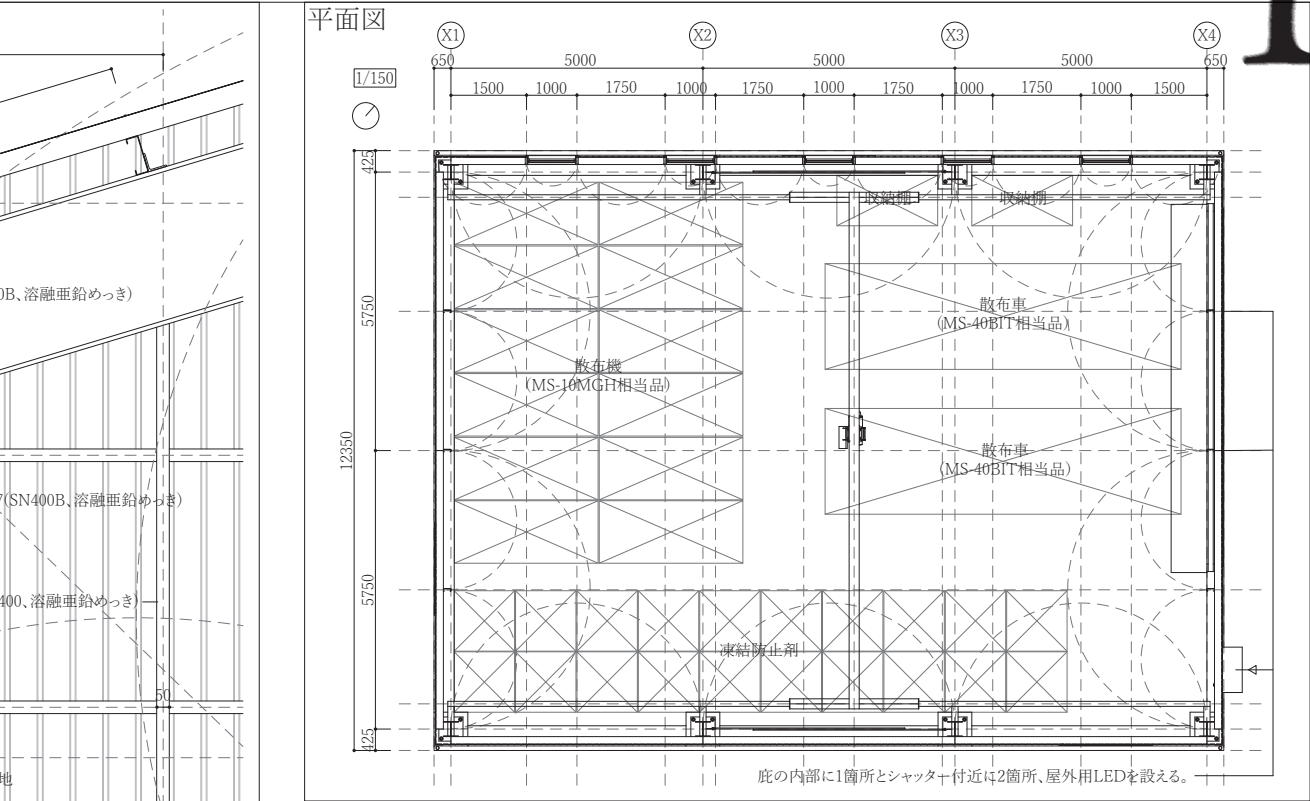
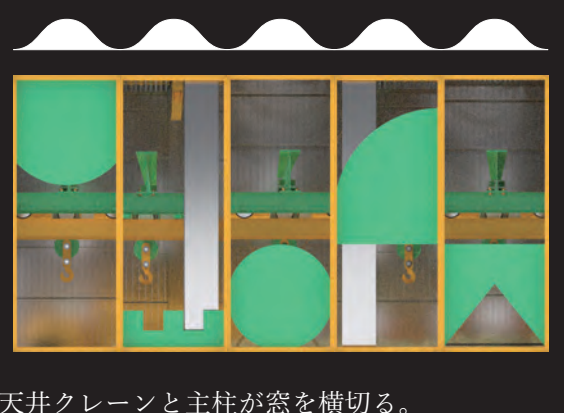
スピードに耐える表徴力

速報、あるいは車室からの一瞥においてのみこの建築は社会と接続する。その利便的な知覚の中で建築が見逃されきよう、**建築の表徴としての強度**を高める必要がある。倉庫というニュートラルな形式に対して、家よりもスケールの大きい家型と、ファサードに穿たれた意・パネル群、窓を横切る主柱とクレーン、マップな庇、シンメトリーに配置された雨樋が**違和**を生じさせる。日中、それぞれ別のオブジェクトは壁面にリズムミカルな影を落とし、夜間、光が灯ると半透明のポリカーボネートを通して巨大な光の格子へと変貌する。それは、**車室からの一瞥に耐え、見る者の記憶に断片を刻み込むための、表徴**である。



クレーン、あるいは表象の装置

クレーンが窓の前を横切する時、その**風情的なシルエット**は窓の幾何学と重なり、**新たなイメージの断片を生み出し続ける**。この装置は、通り過ぎゆく人々の記憶を喚起し、常に移ろふ風景の断片であり続ける。



ニュートラルな架構

経済的、合理的観点から、**短手方向に強固なラーメン構造、長手方向にブレース構造**を採用した。幅11.5mの無柱空間を実現するため、短手方向に柱梁を剛接合した強固な**H型ラーメン架構**を5mピッチで配置。ブレースは壁・屋根共に中央スパンに集中配置し、建物全体の剛性を確保する効率的なコアを形成。2tクレーンの荷重は、主柱から持ち出した**H形鋼のコーブ**で支持。主梁共に**SN400B**材を選定し、高い耐震性を確保する。

架構は**鋼の母屋・胴縁**によって一体的に連結され、屋根・壁の荷重を効率よく主柱に伝達。窓の補強枠はその水平材を**胴縁と並用**することで部材数を削減。幅7mのシャッター開口部は、角形鋼管の方立とH形鋼のまぐさによる補強フレームを設け**胴縁に影響を与えることなく成立**させる。また、敷地境界条件の圧迫を回避するため、独立基礎を偏心基礎とし地中梁で連結。**建築面積の増加を抑**制している。**最小限の部材で成立する明快な構造計画**とした。

○+△+□=CROWN

幾何学はその象徴力により、様々なイメージと結びつく。ファサードを構成する幾何学的なパネル群は、**記憶の中のイメージへの参照**であり、**都市に遍在する無数の建築の断片**でもある。それは過去のイメージが足座のようにきめく瞬間の現出を意図している。そして、それらの幾何学は、黄金比、グリッド、シンメトリー、拡大、切断、円弧、鈍角、鋭角、それぞれ異なる秩序によって独立している。できる限り多くの集合に重なるように合成された幾何学はイメージを積極的に想起させる。それは**表象する幾何学**であり、建築のかたちによって、王冠にだって、文字にだってなってくれる。

